



## 2024年8月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年1月11日

上場会社名 株式会社トランザクション 上場取引所 東  
コード番号 7818 URL <https://www.trans-action.co.jp>  
代表者 (役職名) 代表取締役会長 (氏名) 石川 諭  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 北山 善也 TEL 03-6861-5577  
四半期報告書提出予定日 2024年1月12日 配当支払開始予定日 ー  
四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年8月期第1四半期の連結業績（2023年9月1日～2023年11月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年8月期第1四半期	6,624	11.0	1,487	17.9	1,518	20.9	1,002	22.5
2023年8月期第1四半期	5,969	33.9	1,262	60.3	1,255	59.2	818	57.3

(注) 包括利益 2024年8月期第1四半期 933百万円 (29.7%) 2023年8月期第1四半期 719百万円 (22.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年8月期第1四半期	34.43	—
2023年8月期第1四半期	28.12	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年8月期第1四半期	19,671	16,150	82.1
2023年8月期	20,599	16,236	78.8

(参考) 自己資本 2024年8月期第1四半期 16,150百万円 2023年8月期 16,236百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年8月期	—	0.00	—	35.00	35.00
2024年8月期	—	—	—	—	—
2024年8月期（予想）	—	0.00	—	37.00	37.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2024年8月期の連結業績予想（2023年9月1日～2024年8月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	12,278	8.9	2,577	11.0	2,634	11.7	1,732	11.1	59.48
通期	25,160	9.6	5,220	12.1	5,329	11.3	3,501	5.9	120.20

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 ー社 （社名） 、除外 ー社 （社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年8月期1Q	29,375,400株	2023年8月期	29,375,400株
② 期末自己株式数	2024年8月期1Q	246,865株	2023年8月期	246,865株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年8月期1Q	29,128,535株	2023年8月期1Q	29,104,535株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたって注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	8
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(重要な後発事象)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用、所得環境の改善やインバウンド需要の回復等により持ち直しの動きが見られました。一方、ロシア・ウクライナ及び中東地域をめぐる情勢や、デフレからインフレに移行する兆しが見られたことによる金融資本市場の変動など、先行きに対する不透明感が継続いたしました。

このような環境のもと、当社グループは、第4次中期経営計画において掲げた5つの重点戦略の優先度を見直し、当期においては、「eコマースの強化」を軸として、「SDGs推進から生れる製品需要」「リオープンから生れる製品需要」「コト消費から生れるモノ消費」「国内自社製造の強化」を推進し、社会環境や消費動向の変化を逃すことなく適時適切に捉え、新製品の投入や顧客企業の開拓、関係強化に努めました。

#### ■独自のビジネスモデル

当社グループの独自のビジネスモデルは、今までにない発想で、「あると便利なモノ」「流行を先取りしたモノ」「市場にない(不足している)必要なモノ」などを、短期間で製品を企画・提案する力、海外サプライヤーを通して、製品を無地の状態で、安価で大量に生産・調達し国内に保有する力、これらの無地製品に印刷・加工などの高品質な付加価値を加え、数量に関わらず、低価格・短納期で提供する力を有しております。加えて、一連の過程をeコマースにより効率化することで、他社との差別化を図りビジネスを展開しております。独自のビジネスモデルは、eコマース事業の強化を目指し開発された仕組み、「MARKLESS Connect<sup>※</sup>」の仕組みを顧客企業に提供することで、当社グループ及び顧客企業における受発注業務の無駄が排除され、業務プロセスが効率化されることで、両社の業績を効果的に伸長させる仕組みです。

※当社製品の在庫状況(在庫数量、欠品及び次回納品日)の確認、受発注業務、デザイン入稿、決済などの顧客企業間との取引をすべてECで完結させる仕組みで、人の手を介さず効率化を図ることが可能です。

#### ■eコマース事業

eコマース事業においては、重点戦略「eコマースの強化」を掲げ、2025年8月期に連結売上高に占める割合を30%以上とする目標に向けて、BtoB及びDtoC<sup>※</sup>サイトの売上拡大のための取り組みを強化いたしました。当社グループが構築したECプラットフォームは、リアルタイムでの在庫情報の確認や受発注など一連のやり取りを自動化し人的な関与を削減しております。この仕組みは、当社グループの売上増加や生産性向上、効率化に留まらず、顧客企業においても同様に効果を発揮しております。当第1四半期は、前期に続きリアルとeコマースを融合したハイブリッド型の営業活動に注力した結果、eコマースの売上拡大が連結売上高の伸長に寄与し、利益確保に繋がりました。主力のBtoBサイト「MARKLESS STYLE」においては、引き続き「MARKLESS Connect」の売上が大きく伸びました。主力のDtoCサイト「販促STYLE」では、登録製品の拡充やユーザビリティを向上するなどの施策により会員数が増加、リピート率が向上いたしました。また、物販・OEM向けの「オリジナルグッズプレス」や企業のオリジナル物販品や記念品などを製作する「オリジナルドットコム」においても、施策の成果が徐々に現れております。オリジナルブランドサイトでは、ペットウェア・関連製品を取り扱う「Calulu ONLINE STORE」や、トラベル関連製品を取り扱う「gowell」のサイトにおいて、SNSを効果的に活用することで、これまで対応しきれていなかった顧客層へのアプローチに努めました。

この結果、eコマースの売上は前年同期比で4億23百万円、41.0%の増収となり、売上構成比も前年同期より4.7ポイント拡大し22.0%となりました。

※「Direct to Consumer」の略で、メーカーが自社で企画・製造した商品を、卸売業者や店舗などの中間業者を介さず、直接最終顧客に販売するビジネスモデルです。

#### 「エコプロダクツ」

エコプロダクツは、素材にオーガニックコットンや再生素材、バイオマスプラスチック、天然素材などを原材料とした繰り返し使える製品や、廃棄資源にアイデアやデザインなどの付加価値を与え、より価値の高い製品に生まれ変わらせたアップサイクル製品などです。これらの製品は、素材にこだわることでCO2の削減・抑制に貢献し、SDGs達成に向けた取り組みを意識している顧客企業から評価と支持を得ております。

エコプロダクツにおいては、重点戦略「SDGs推進から生れる製品需要」を掲げ、環境に配慮した製品カテゴリーの拡充に努めました。当第1四半期においても、エコバッグやタンブラー・サーモボトルなどの主力製品が好調に推移いたしました。これらの製品は、高い汎用性と優れたデザイン性を兼ね備えた「無地製品」であることから、セールスプロモーション用のノベルティやイベントで物販品として活用され、エンドユーザーや代理店等に対する売上加え、eコマースの強化により「MARKLESS STYLE」や「販促STYLE」の売上も増加いたしました。物販・OEM向けの「オリジナルグッズプレス」においては、オリジナルショップグッズとしての利用が増加いたしました。また、当社グループのエコプロダクツにおけるフェアトレード推進活動への取り組みが評価され、第1回フェアトレード・ジャパンアワード「ソーシャルムーブメント部門 優秀賞」を受賞いたしました。小売り向けに展開してい

る「MOTTERU」では、4度目となる2023年度グッドデザイン賞を受賞したほか、環境省主催の「選ぼう！3Rキャンペーン2023」の対象製品に3年連続で選出されました。

この結果、エコプロダクツの売上は、前年同期比で1億90百万円、6.8%の増収となりました。

#### 「ライフスタイルプロダクツ」

ライフスタイルプロダクツにおいては、「リオープンから生れる製品需要」「コト消費から生れるモノ消費」を掲げ、好調業界やセールスプロモーションの需要拡大が見込まれる業界に対して、製品・サービスメニューを拡大し、リアルとeコマースを融合した効率的かつ効果的な営業活動を展開いたしました。当第1四半期においても、ライフスタイルプロダクツの売上拡大をけん引しているゲーム・アニメ業界やVTuberなどの業界に対する売上が伸長したほか、2.5次元やスポーツイベントなどの業界においても、ECによる物販品やリアルイベントによる会場での物販品の需要が増加いたしました。これらの物販品は、多様化しかつ高いクオリティも求められるため、新たなカテゴリー製品の投入や、国内自社工場に新規設備を導入し鮮明なフルカラー印刷を施した製品の提供により顧客企業の要望に対応いたしました。また、新たなカテゴリー製品の認知度向上のため、展示会にピクチャースタイルタオルやアクリル製品などを数多く出展し、エンドユーザーや代理店等の顧客企業から好評を得ました。セールスプロモーションにおいても、キャンペーン需要の回復に合わせてIPを活用した企画提案を強化し売上拡大に努めました。ペットウェア・関連製品では、販路拡大と通年販売が可能な新製品の開発に取り組みました。トラベル関連製品では、人気キャラクターとのコラボ製品を一新しインバウンド需要に対応したほか、今後の海外旅行需要に向けた販路拡大に加え大手専門店やホームセンターなどの売り場獲得に注力いたしました。

この結果、ライフスタイルプロダクツの売上は、前年同期比で4億74百万円、17.2%の増収となりました。

#### 「ウェルネスプロダクツ」

マスクや除菌スプレーなどの衛生用品を中心に一定の需要となり、前年同期比で5百万円、1.7%の減収となりました。

生産面においては、複数の生産拠点の確保及び為替変動や原材料価格の高騰に対応した機動的な生産地の切り替え、物流経路の最適化を図り、継続した安定供給の実現と価格競争力の強化に努めました。また、海外サプライヤーの工場への視察頻度を高め、製品の品質向上と製品ロスの低減を推進しました。加えて、新たな海外サプライヤーや国内の仕入先を開拓することで、価格競争力の更なる強化により利益率の維持・向上に努めました。国内自社工場においては、新規設備の導入や生産に対応する人員の増強により、内製化率が高まり、生産性の向上に繋がりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、66億24百万円（前年同期比6億55百万円、11.0%の増加）、営業利益は、売上高の伸長による売上総利益の確保、販売費及び一般管理費の計画的支出により14億87百万円（前年同期比2億25百万円、17.9%の増加）となり、経常利益は15億18百万円（前年同期比2億62百万円、20.9%の増加）、親会社株主に帰属する四半期純利益は10億2百万円（前年同期比1億84百万円、22.5%の増加）となりました。

当第1四半期連結累計期間における販売経路別及び製品分類別の販売実績は、以下のとおりであります。

<販売経路別販売実績>

販売経路	売上高		増減	
	前第1四半期 連結累計期間 (百万円)	当第1四半期 連結累計期間 (百万円)	増減額 (百万円)	増減率 (%)
エンドユーザー企業向け	2,959	3,129	169	5.7
卸売事業者向け	1,977	2,039	61	3.1
eコマース	1,032	1,456	423	41.0
合計	5,969	6,624	655	11.0

<製品分類別販売実績>

製品分類	売上高		増減	
	前第1四半期 連結累計期間 (百万円)	当第1四半期 連結累計期間 (百万円)	増減額 (百万円)	増減率 (%)
エコプロダクツ	2,801	2,991	190	6.8
ライフスタイルプロダクツ	2,759	3,234	474	17.2
ウェルネスプロダクツ	329	323	△5	△1.7
デザインその他	79	75	△4	△5.3
合計	5,969	6,624	655	11.0

(注) デザインその他は、グラフィック・プロダクト・WEBデザインの受託業務や印刷業務等の雑貨製品に該当しないものであります。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

(流動資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は、前連結会計年度末に比べ14億14百万円減少し、137億75百万円となりました。主な要因は、現金及び預金の減少22億15百万円、製品の減少14百万円、受取手形、売掛金及び契約資産の増加9億22百万円によるものであります。

(固定資産)

当第1四半期連結会計期間末における固定資産は、前連結会計年度末に比べ4億86百万円増加し、58億95百万円となりました。主な要因は、投資その他の資産の増加3億25百万円、有形固定資産の増加1億49百万円、無形固定資産の増加11百万円によるものであります。

(流動負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は、前連結会計年度末に比べ7億86百万円減少し、26億39百万円となりました。主な要因は、未払法人税等の減少7億27百万円によるものであります。

(固定負債)

当第1四半期連結会計期間末における固定負債は、前連結会計年度末に比べ55百万円減少し、8億81百万円となりました。主な要因は、長期借入金の減少49百万円によるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ86百万円減少し、161億50百万円となりました。主な要因は、繰延ヘッジ損益の減少38百万円、その他有価証券評価差額金の減少37百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年8月期第2四半期連結累計期間及び通期の業績予想につきましては、2023年10月12日に公表いたしました数値から変更はありません。

なお、業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年11月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	6,006,583	3,791,542
受取手形、売掛金及び契約資産	2,734,278	3,656,853
有価証券	859,361	855,704
製品	4,746,607	4,732,435
その他	851,116	746,500
貸倒引当金	△7,562	△7,561
流動資産合計	15,190,385	13,775,473
固定資産		
有形固定資産	1,114,551	1,263,744
無形固定資産		
その他	165,194	177,102
無形固定資産合計	165,194	177,102
投資その他の資産		
投資有価証券	2,880,031	3,280,255
その他	1,249,530	1,174,688
貸倒引当金	△380	—
投資その他の資産合計	4,129,182	4,454,943
固定資産合計	5,408,927	5,895,791
資産合計	20,599,312	19,671,264

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年11月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	959,141	1,199,128
1年内返済予定の長期借入金	332,513	303,330
未払法人税等	1,087,987	360,188
賞与引当金	223,496	122,008
株主優待引当金	7,337	—
その他	815,340	654,796
流動負債合計	3,425,816	2,639,452
固定負債		
長期借入金	431,138	381,205
退職給付に係る負債	314,745	320,149
資産除去債務	37,221	37,223
その他	153,735	142,779
固定負債合計	936,840	881,357
負債合計	4,362,657	3,520,809
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	93,222	93,222
資本剰余金	3,305,428	3,305,428
利益剰余金	12,144,917	12,128,270
自己株式	△203,471	△203,471
株主資本合計	15,340,096	15,323,449
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	540,891	503,336
繰延ヘッジ損益	127,851	89,222
為替換算調整勘定	189,773	198,862
退職給付に係る調整累計額	38,041	35,584
その他の包括利益累計額合計	896,558	827,006
純資産合計	16,236,655	16,150,455
負債純資産合計	20,599,312	19,671,264



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年9月1日 至 2022年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年9月1日 至 2023年11月30日)
売上高	5,969,644	6,624,888
売上原価	3,640,956	4,022,344
売上総利益	2,328,688	2,602,543
販売費及び一般管理費		
給料及び手当	325,339	341,688
賞与引当金繰入額	91,419	83,245
退職給付費用	7,484	6,996
貸倒引当金繰入額	295	△57
その他	642,136	682,734
販売費及び一般管理費合計	1,066,675	1,114,607
営業利益	1,262,012	1,487,935
営業外収益		
受取利息	87	98
有価証券利息	10,452	35,434
その他	1,249	140
営業外収益合計	11,788	35,673
営業外費用		
支払利息	462	763
為替差損	17,654	4,463
その他	21	51
営業外費用合計	18,137	5,278
経常利益	1,255,663	1,518,330
特別利益		
特別利益合計	—	—
特別損失		
固定資産除却損	0	0
特別損失合計	0	0
税金等調整前四半期純利益	1,255,663	1,518,330
法人税、住民税及び事業税	373,623	396,482
法人税等調整額	63,625	118,996
法人税等合計	437,249	515,479
四半期純利益	818,413	1,002,851
親会社株主に帰属する四半期純利益	818,413	1,002,851

(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年9月1日 至 2022年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年9月1日 至 2023年11月30日)
四半期純利益	818,413	1,002,851
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△21,886	△37,555
繰延ヘッジ損益	△71,036	△38,629
為替換算調整勘定	△3,765	9,088
退職給付に係る調整額	△2,111	△2,456
その他の包括利益合計	△98,799	△69,552
四半期包括利益	719,614	933,298
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	719,614	933,298
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。